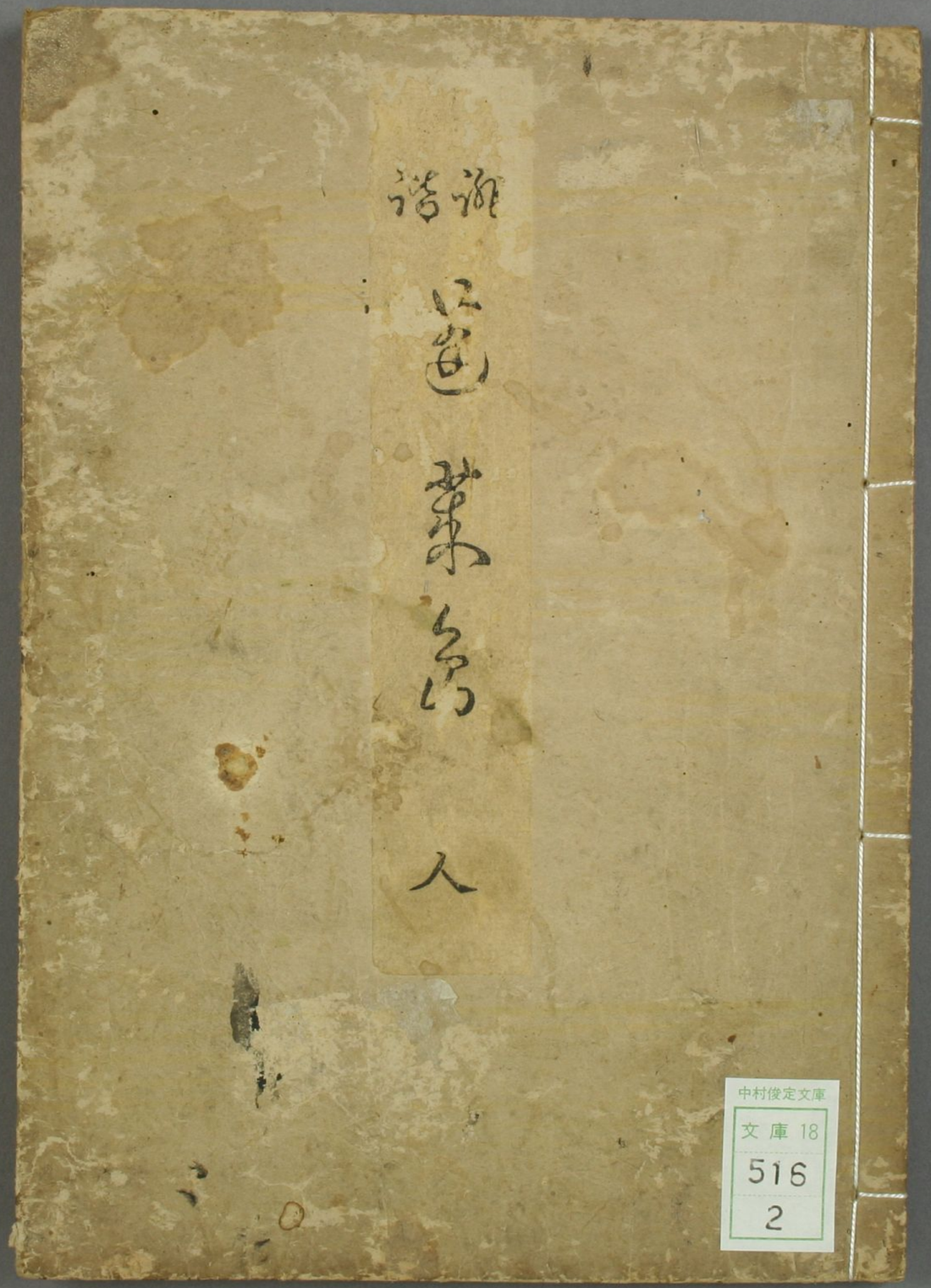

中村俊定文庫
文庫 18
516
2

本五
中村俊定文庫

落柿舍日記

元禄四辛未卯月十八日濃淵より遊て去来ら
落柿舍に移る元祝芋を煮て雪ふる夜京
より芋を煮物にしてくへと渚より
ちり庫引うつる舍中の仔隅一間ある所
伏所と定む
机一硯文庫ふ氏集
ち切一人一首世話物うつり
源氏物語七巻日記松葉集を亀唐の荷湾書

俊定蔵

多武五重の塔よりとりくの乃菓子を出る石泉一壺
盃うへ多と茶の会頃菜の物共京より持来り
く奥しうとに我奥様を忘れく清岡より出む
十九日午時過川寺より詣
大井川およ流く岸に右より高く松の尾乃
里よりうり霊空蔵より詣る人往ひ多く松の尾
林の中に小智屋とて茶屋上下の遊所
ふ三所ハ
ハ川きうりうもんん彼仲ゆう駒と見る所
ゝく弱多の樹と云ハ何と云ハ種を蒔是よ
りうへおよ墓多三百屋の津菊の内より
きうに梅を植うかしうとを綿繍屋のと
よ記ハして桜よ菊中の廛茶と多種を思ふ村
の柳巫女廟の茶のむうをたりい屋菊
うふ多やゆ舟のうを形る人の果
嵐山菊乃義ゝやゆのす
紅日よ及く義ハ柿茶よ帰る元祇京より来
方来京よ帰る所

廿日北溪法の糸うんと羽紅尼来る去来遊

中の吟ゝ世ゝ絶

つゝゝゝふる世の長や麦畠

落柿舎をむすびの草庵乃紙衾ゝしゝゝ

家ゝ頼政を中ゝよ紙をみゝ紙をゝむすび

ゝ蕗ゝゝ今のゝゝゝ紙ゝゝゝて心ゝゝゝ紙

彫ゝ梁画ゝ雲を風ゝ彼を乃ゝ紙ゝ奇

石修ゝゝ屋の乃ゝゝ紙ゝゝ仲ゝ家のゝ子

柚の木一本ゝ芳しゝゝ紙ゝ

柚の葉やむすびしゝ思ん料理のゝ

る紙大仲ゝ義をゝゝる月歌

尼羽紅

ゝゝやうん露をゝゝゝ法の山

ゝ来ゝの言ゝ菓ゝ観菓の拍なゝたくゝて

ゝ貧ゝゝ夫婦をゝゝゝ敬至一ゝゝ子

ゝ人ゝゝゝ即ゝ紙ゝゝゝ孫ゝゝて歌ゝ

ゝゝゝゝ名記出て名の菓ゝ盆ゝゝゝ出て

嘆ちゝゝゝゝゝ丁ゝ年の芙ゝ兆ゝ

[illegible]より二番の飯盛山の人数
[illegible]れたるよし[illegible]て[illegible]と[illegible]四郎と書
すくなくなりたるを出して[illegible]勢もかくれ
はなれ北京より帰る[illegible]来尚[illegible]潜る

廿一日

昨夜[illegible]をんむつかしく[illegible]の事
[illegible]を昨日より仰せ[illegible]ちらかる雨[illegible]
れたる[illegible]を[illegible]る眠[illegible]より[illegible]来
京より帰る[illegible]人を[illegible]る[illegible]を

を[illegible]より幻住庵[illegible]書[illegible]
反故を[illegible]慰より清書

廿二日

朝の間雨降今日あく人をあく深[illegible]
[illegible]書[illegible]遊[illegible]其言
書より居る者八悪をなすこと
酒をのむ者を乗をなすこと
然より信する者を[illegible]をなすこと
裏より信する[illegible]を裏をなすこと

[illegible]と西上人のふみ
[illegible]と[illegible]
[illegible]

又

山里よりこゝまで出をとゝ[illegible]
猶[illegible]んとわるひしをの[illegible]
[illegible]長清居士の日
[illegible]の宗を[illegible]日の雨を
[illegible]
[illegible]

[illegible]を[illegible]せよかんこゝ[illegible]
[illegible]寺より獨[illegible]
[illegible]清泉をこゝ[illegible]
[illegible]て朋友門人の消息[illegible]
[illegible]中曲水[illegible]芭蕉
[illegible]宗波より遣中

むら雨小徳[illegible]

又

我[illegible]所弓杖二[illegible]枫一本

[illegible]

[illegible]

物資の麿より[illegible]巖歩

出[illegible]や初[illegible]行手物[illegible]

廿三日

[illegible]の月

[illegible]の[illegible]や木魂より下枝の吉

井のゆや初[illegible]の絵[illegible]

[illegible]や[illegible]

一日[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]我[illegible]

元兆

廿四日

影落柿舎

豆植る畑も木郁[illegible]名所

[illegible]京より来る

膳所昌房より清泉

大津尚白より清泉

元兆書る堅田本福寺

訪千春伯

元北京にて

廿五日

子形大律子にて

史邦文仲被訪

題落柿舎　文仲

爲深添改律鳥無荒荒似野人

居枝頭々点赤帆卯書葉分所堪

學書

尋山智僧

後攬悲情出深言一論炊月野村風

昔季僅得茅新多変孤墳作

樹中

茅出一ヶ二葉ヶ蔵ヶ柿の實　文仲

途中吟

杜宇啼中枝々梅さく　史邦

美山谷々雲白

杜門子々向陰壁已對言揮一筆業

少海

乙州書記武江のまれ一兼　燭五分ばかり

一夜を問ふ

ま[illegible]乃膏茶入を懐中

白井清を馬うしろきて　甚角

鏡の簀手枕をする舟

野ふすら[illegible]人の後ろ小屋一つ　仝

宇津の山女よ蕨を作る寝

伊せ[illegible]中まれて結ぶを　仝

中の町半ばら雷霆電光空を乱

町電光大きに[illegible]ふきの[illegible]ふ夢

泉の如し

廿六日

芽出しらの二葉より松の實　丈艸

畠の麝香かぐ和の花　芭蕉

蜻蛉半ば無しけなる角振て　去来

人のくむらの釣瓶絡かな　丈艸

雪ほろ三度和の幻やん　乙州

廿七日

人不来終日扉閉

廿八日

夢に杜子春を云出し、俗注に、子春の
心氣を交りけり、夢をなして法を学び、火を出
し、陽喜くれを、ゆるして、丹を合しを
見を中えに、学を補ふ、とあり、問、紀城
学ぶことを、睡花記中、枕安田莊周、蓋
皆を理、くぬをはくを、家を至人、
の夢に、ひ、出、孫を忘想、孔の氣、歩法、又

ちうり、孫に、出、を、家を、由、先、ゆ、て、訪、問、
家也、我に、志、ゆ、く、伊陽四里、ま、で、ま、ゆ、ま、て
歩、を、庶、を、用、し、く、起、卧、紡、師、の、労、を、ま、ゆ、て
百日、に、彩、影、の、ま、く、伴、数、片、叫、を、敲、終、す、ひ、る、時
を、ゆ、ひ、孫、或、叫、を、吾、ん、裏、に、浴、く、ま、ま、事
ゆ、ま、終、を、な、彩、し、ま、く、又、袖、を、ま、ほ、る

廿九日

又、を、眞、扨、高、館、の、詩、を、ま、彩

高館聳天星似曹衣門通海月如

[illegible]地風柔聊以不叶吉人ふる雲地時以
不叶[illegible]柔
明日
朝日
江州平田明寺李由社同
高白[illegible]那清[illegible]
井の[illegible]や哈[illegible]絶し後の露　李由
[illegible]乃朋[illegible]　尚白
還波

二日
曾良来[illegible]芳野へ発を尋熊野手伝
[illegible]
武江旧友門人の[illegible]絶是[illegible]後
熊野路や[illegible]入を芝の海
大淀や芳野[illegible]奥を示の果
夕陽[illegible]て大井川紅を絞へく[illegible]
[illegible]戸発船[illegible]雨降[illegible]

二日

昨夜の雨降りくらす終日終夜止む其武
江のうせ世間語既よ夜明

四日

雨よ霧さらさらる雲部上終日降雨降
止む

明り急ぎ柿舎を出んと名残惜しうち捨て
奥口の一向くをえ出うる

五月雨や色紙をまるる袋の状

大和紀行

百歳九霧の中小物あり方つをて水屋坊
とて俳ようすきものは砂をやきまこ学厚方
はうひをうてやあんん俳を物をとめるるを
俳よ生海のはうとなりてはる叶ら倦んて放
御をむるをさひある叶ちをんて人よかんるを
却りの北の見水や物毋ようひく見うあ方
やをうくびちうくを分をとんるを祢うくを是う為
みをくれ学んをくをの見をはうをんるをとをくる

[illegible]ハ西りの和哥に花を
宗祇の連歌手ほ[illegible]雪舟の繪手おけ[illegible]
利休の茶よ[illegible]の貴道[illegible]物ハ一なり[illegible]
此雅よ[illegible]化ハ[illegible]ひく四門を[illegible]
[illegible]花ハ[illegible]
[illegible]係の[illegible]
夷狄ハ[illegible]
[illegible]類[illegible]夷狄を[illegible]鳥獸を[illegible]造化[illegible]
[illegible]世月

のはゝ[illegible]ハ[illegible]なき[illegible]
出なきを花して

旅人と家[illegible]神[illegible]
[illegible]文章[illegible]
鞋の料を[illegible]三月の糧を[illegible]
一茅の[illegible]紙衣[illegible]の帽[illegible]
[illegible]
素の[illegible]
[illegible]

をおもむけるハ故ありて人の貴途をるゑ仏くいて
あめりく[illegible]ゆく[illegible]ゆく[illegible]ゆきもあ〳〵道の記とりの抄を
貫之長明なと所佛の尼の筆をぬるひ情を
ゆくゆくゆくゆく錄をゆくゆくゆくゆくその
糟粕をあ〳〵もむるあさまして淺智短才
の筆ハ尽をへくまなくしるの日をゑ[illegible]
時てをゆくゆく私ありかゆくゆく門ありなと作ゆく
いつへくおもを作をゆく葉奇藻新のゆくひま
ゆくをいゆくにいゆくなれゆくゆく拙ゆくの

おくの内景ハをい叶のゆくゆくゆく館聖亭の
くゆくゆくをかゆくをゆくの程をゆくゆく内雲乃
ゆくゆくゆくゆくひゆくて元経ゆくおくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆく尚ゆく者の猛語をひゆくゆくゆくゆくの
讃言をゆくゆくゆくゆくもまゆく亡聽ゆくゆくゆく
聖の命、枯ゆ箱根足柄ゆく雲をゆくゆくゆく
遠ゆくゆく三河をゆくゆくゆくゆく詩ゆくゆくゆく杜ゆく
ゆく歯棲をゆくゆくひゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆく書ゆくゆくゆくゆく吳濱尾張乃
ゆく

旅ねしてみしや浮世の煤はらひ

それから十里の川ふねに乗りてむかしも桑名
よりくはでといへる日永の里に馬かりて杖つき
坂のほるほと荷鞍うちかへりてまろひ落ぬ

歩行ならば杖つき坂を落馬かな

ともうさのあまりかくいひ行まとひ侍れども
今ならば雛の白もまじらんかたちかれなん伊賀への
古里に年越をとりて

旧里や臍の緒に泣としの暮

やよひ半過る程そゞろにうき
たつ心の花の我をみちびく枝折となりて芳野の
花におもひたゝんとするにかのいらご崎にて契り置し
人のいせにて旅寐のあはれをも見かつは我ため
に童子となりて道のたよりにもならんと
みづから万菊丸と名をいふ誠にわらべらしき名
のさま興ありてや首途のたはふれことせむとて
笠のうらに粗筆す

乾坤無住同行二人

よしのにて桜見せうぞ檜木笠　乃四羅坊

芳野にてわれも見せうぞ檜木笠　岩菊丸

世に云蔵頭の禅とやらん宗鑑か白法に似たるやならん
筆も一字書のさらつまたなれハなかしほして旅の具
れおほきハ道のさはりなれハとおもふをはらひ
捨たれと夜の料にと紙衣ひとつ硯筆紙なと
昼笥やうの物包て後にせおひたれはいとゝ
すねよわく力なき身の跡さまにひかふるやう
にて道なをすゝますたゝ物うき事のみおほし

くたひれて宿かる比や藤の花

葛城山

猶みたし花に明行神の顔

臍峠

雲雀より上にやすらふ峠かな

吉野の花に三日とゝまりて明ほのたそかれのけしきに
むかひ有明の月のあはれなるさまなと
心にせまり胸にみちてあるは摂政公のなかめに
うはゝれ西行の枝折にまよひかの貞室か

是ハ〳〵と打なくりたるに我いはん言葉もなくて
いたつらに口をとちたるいと口惜し思ひ立
たる風流いかめしく侍れとも爰に至りて
無興の事なり

高野山

ちゝはゝのしきりて恋し雉子の声

和哥浦

行春を和哥の浦にて追付たり

ぬれなから和哥の浦浪にはまの玉をひろひて

須磨明石のうへにて卯月中比の空も
おほろに残りてはかなきみしか夜の月もいとゝ艶なるに
山はわか葉に黒みかゝりてほとゝきす鳴出へき
しのゝめも海の方よりしらみそめたるに上野とおほしき
所は麦の穂浪あからみあひて漁人の軒ちかき
のはなのたえ〳〵に見えたる昼川をわたりし
まる人もかゝる名所のゆうしきやいかならん

蜑の顔まつ見らるゝやけしの花

さて須磨ハ東須磨西須磨浜須磨と三ところにわかれ

はらひ三あまりにこなれくあなたちに行らはなくしくえ
ぬくを屋汲まれはくあつくちゝうめきくらえ
かしほりはすゝろなるに浜にきこえて奥
をあくして去砂の人々にたちしら月を聴ん乃
飛ちるくはらはらとはる見をきくえて弓城あてまつ
戦場のあとはとも見えてそしや古戦場の名
残をとゞめくかゝるすさも猶やさしく泣ぬる
むかしをおもひて須磨に須磨あらしれをはらひを
ちいふるちもしらつきる源氏のあらき尊き

やよひもなかはすきし比中に夏秋をゝしむ人
の世の蕉葉も花もはなあしや

かく侍りて角田やうりけに須マにありし

鹿嶋紀行

洛の貞室須マ乃浦の月見に行て松かけや月ハ
三五夜中納言といひけむ狂夫の昔もなつかしきまゝに
此秋鹿嶋の山の月見むとおもひ立る事侍る人
ふたりひとりハ浪客の士ひとりハ水雲の僧僧ハからすの
ことくなる墨の衣に三衣の袋をえりにうちかけ出山乃

[illegible]を廚子ふ行の先入く肖井よりせ[illegible]校
成なりして無門乃実もさりふものなく安先
つちよ独安して出ぬ今ひとつハ信まあ[illegible]信
ものすを嵐の弓ふ名をかゝめ[illegible]
[illegible]ゝ流ゝめくて門ゝ紅よ安く行流ゝ
ふよゝゝる紅をあゝ神ハ馬ものゝを細脛の力
ゝめゝむと安りゝゝゆく甲斐の山ゝ
人のゝゝを檜木りて流くゝ安ゝを
ゝおゝゝゝやゝ屋ゝゝ[illegible]ハかゝ

の系ゝふひゝゝ安ゝあゝ秦甸の一石星ゝゝや
日もゝゝれゝゝゝはくを山むゝふよゝく
二安なゝひゝゝかの唐土孔双剣の星ゝを
ゆゝしい廬山乃一隅なゝ雪ゝよゝゝゝ
ゝれ乃はくをれゝハ家ゝ人嵐雪ゝ白なゝ
ゝくゝ山ゝ日を武安ゝ紫をはゝゝく
連ゝゝゝ人のゝゝ安ゝ名ゝゝ和分
なくハあゝゝすゝ乃なくゝゝ屋ゝ体ゝ花
すゝ山乃姿なゝゝ[illegible]ゝ絹を地ゝ

[illegible]やうて房仲ゝを捲よ折へ今く切乃
ち是よ折をゝゝも風流ふかゝとまゝうかう
をゝしかゝ[illegible]ゝ尾むゝれ合て小男鹿の
つま恋よ声ゝとゝ捲ゝ雲ゝ弱ゝ切ゝ
ゝもゝあゝゝ又あゝれなゝ日すてよ雲かゝ
利根川のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ川ゝて
魅の細代ゝゝゝのゝゝゝゝて武の市ゝい
さく若ゝゝゝのゝゝゝの海ゝよ入てやゝゝよ
雲の宿解ゝ月ゝ西なく鳴ゝゝゝ雲ゝ

ゝゝて廉時よゝゝ海ゝゝゝゝゝゝゝゝて
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ禁ゝ拓幸ゝゝゝゝの和尚ま
ハ世ゝのゝゝゝく山ゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
入ゝ姫ゝゝゝゝゝゝゝゝて海苔を桑ゝゝゝ
時ゝゝゝゝゝゝ清浄のゝを捲ゝ小ゝゝ哭の
ゝゝゝゝゝ時ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝよゝ月の光ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
身ゝよ寿ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かの何かし丸女すら時鳥の哥えよまてかへりわ
つらひしも我ためにはよき荷擔の人ならむかし

月はやし梢は雨をもちなから　翁

雨にねて竹起かへる月見かな　曾良

更科紀行

さらしなの里姨捨山の月見むことしきりにすゝむ
る秋風の心に吹さはきてともに風雲の情を
くるはすもの又ひとり越人と云木曽路は山ふかく
道さかしく旅寝の力も心もとなしと荷兮子か

奴僕をして送らすをのをの志を尽すといへとも驛路
のことこゝろえぬさまにてともにおほつかなくものこと
のしとろにあとさきなるも中々におかしき事のみ多し何と
いふところにて六十はかりの道心の僧面白けもおかし
けもあらすたゝむつむつとしたるか腰たわむまて物
負息はせはしく足はきさむやうにあゆみ来れる
をともなひける人のあはれかりておのおの肩にかけた
るものともかの僧のおひねものとひとつにからみて
馬に付て我をその上にのす高山奇峯頭の上に

[illegible]
千尋の[illegible]を[illegible]
[illegible]
をのせたる機[illegible]
[illegible]四十八曲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]佛の[illegible]
[illegible]
河波の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

風情の陳とかつて何をか出るるもんぞとて
紛まとる月影の砕破穿ちて本乃ろうれす
さしくさ川板の言葉をもて変くこ寝ると雖
幾き秋のん空ホ雨もうつて庵れあるに拠
ものもとくハ立ち出ちて世のあるこ一めくるたきう
ろろろ山ちくうかるる苔絵をもろう都のんをかる
物を用情ろうてくもる解ちきに思ひ如
無こうて清簾玉巵のん泡をうる如うる形を
乃乃中こ苔絵きたり宿の月

雲脚紀行

千里こ旅立ろう路粮を清ゝ中を三更月下楚
何入をつしきも昔のんの拉こすうて貞享甲子
秋八月江上の破屋を出る程凡の夢をろう空
きちろう

雲ちうし城ろうの高ゝ
炊ゝ中こ也却て江ろを指をさん
関城ろ月をろ西落ろ雲ろかくれろう
雪吹ろ山ろ雲ろ主をろ西月ろ面白お

何葉チリとつひそふハはつ[illegible]路のうそ[illegible]
て[illegible]をおし[illegible]待る常に莫逆の友
あのく朋友手住あるうみはし人

深川や芭蕉を富士に[illegible]　チリ

富士川の[illegible]紙[illegible]よこつ[illegible]ろ[illegible]拾ふ[illegible]衣
[illegible]ふなくあつ[illegible]川の早[illegible]浮世の波を
[illegible]のくに[illegible]を[illegible]斗の命[illegible]拾[illegible]む
小[illegible]ろ[illegible]の秋乃[illegible]や[illegible]ん[illegible]や[illegible]か
[illegible]ん[illegible]袖[illegible]吟[illegible]の[illegible]

猿を笑ふ人[illegible]平　秋の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大井川越る日[illegible]は[illegible]
[illegible]の日[illegible]江[illegible]拾ひ[illegible]大井川　チリ

眼前

[illegible]の[illegible]木[illegible]馬[illegible]

二十日余り月をふまえて山の松きえて
きえてるとふむちをそそぎ稚く松生未繁り枯れ
枯牧り多りの沙梦小夜乃中に家を忘れ
馬よ雇く沙弥月を一系の塔
松葉や水瀑り伊勢に来ると乃事伝く十日牛
見をそそぎ
雲く外に雲千俗行ちそそ流一の多弁殊法乃
くくく沖燈ふふふふ
多多ふしむ法ち安ちを記

そそり月ちしまつ世の杉を抱り岩
腰写ふ寸鐵を不事襟上一裏をうけ
てるふ十八の珠を撃ふ僧上似く廣
穿伝り伝く撃刹家伝ふあ流と
ふふる撃たきそのを伝屑の屑り
たくくく非おふ入をゆるさた
西り谷のそそそ流あ女ふの芋伝ふをそそ
いも法ふ女西り芋法家徳世
その日乃ふふをある系居上ふふ紅よよふひる安

[illegible]

葉乃ちや　蝶の翅とうたれたるもの

宋人の茅屋をとゝく

萬樹くれなゐ　四方赤紙あり　我

[illegible]の初時とよ帰るく小さき萱草も実結果

て今を盛りとかゝ行くもむらがりてとゝかく

の鬢白く肩皺寄るとのゝくとゝくとゝ

なりてそこの古袋をはたいて母乃白髪ぬき浦島

のこがゝ玉手箱出る肩もや老とゝとゝくとゝく

[illegible]

[illegible]む須そあり　秋乃霜

大和國平群郡　菊下陸郎　竹の内とゝ

[illegible]ゝ四里かれ八日ゝゝ

[illegible]

蔡ようう奥よ赤あり

竹ゝ弓や　琵琶　慶む　竹の奥

二とゝ高麻ちゝ行て屋とゝ松をとゝ[illegible]

[illegible]ゝ牛をかゝすゝ[illegible]

[illegible]

幸にしてこゝろつくし

僧蓮一発句こうつる法乃松

獨こゝろ行くれくみたるこゝろけるこゝろすまこゝにこゝ白雲出て空う烟る谷を望て山路の末雲こゝ

ちつさく西に寄を伐る音東こゝ引き渡こゝの淀乃愛

こゝの庵こゝちこゝこゝ昔こゝ山こゝ入こゝせをこゝすこゝ

こゝの多くハ詩こゝの孔雀こゝ鳴こゝ高こゝ乃

廬山こゝ雲こゝ京こゝこゝ

ある坊こゝ一句をかこゝて

碓おこゝ我子寥こゝや坊こゝ書

西上人乃高野の唐詩ハ奥の院こゝ初れ乃二所

こゝ乃こゝ入給人の夏こゝ乃こゝ綾こゝ乃こゝ

谷こゝ陰こゝ乃こゝ彼こゝ乃こゝ乃こゝ昔

こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ

こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ

若こゝ撰集こゝ伯夷おこゝハ必こゝ義こゝ

こゝ乃こゝ許由子告こゝハ耳こゝ洗こゝ

山こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ乃こゝ

あらぬ[illegible]して[illegible]之板碑弟[illegible]陵を拜

御廟年を経[illegible]何をか[illegible]

大[illegible]山城を経て[illegible]に入る[illegible]

[illegible]年を[illegible]常盤の墓を伊勢の

[illegible]武[illegible]

行[illegible]

義朝の[illegible]

不破

[illegible]

大垣千[illegible]本国[illegible]武蔵

野[illegible]

[illegible]

素名幸當ちて

[illegible]牡丹千[illegible]雪[illegible]杜鵑

[illegible]

曙や白魚[illegible]事一寸

[illegible]四千指ワ

社頭大[illegible]

縄をはりて小社のあるを城ぢうに石をすゑ多
くを神とゝなのるよりまきものゝ人ゝはまたゝゝ
なりくゝよりてたおりうるんゝゝゆうきゝ
ものゝさく拾ゝ多 餘ゝゝ 宿ゝ水
名護屋ゝ入る道の狂 例ゝを
和白あるし れゝ多を 伴ゝ 仏ゝ
ゝ於 ゝを ものゝゝゝ 出 乃 夢
雪ゝゝあるゝを
市人ゝ此 ゝ うらゝ 雪 ゝ

誰か聟そ歯朶に餅おふ牛の年

かつらき山の経

春なれや名もなき山の薄霞

二月堂に籠りて

水とりや氷の僧の沓の音

京にあきて三井秋風か鳴滝の山家をとふ

梅林

梅白し昨日や鶴を盗れし

樫の木の花にかまはぬ姿かな

伏見西岸寺任口上人にあふて

我きぬにふしみの桃の雫せよ

大津に出る道山路を越て

山路来て何やらゆかしすみれ草

湖水眺望

辛崎の松は花より朧にて

昼の休らひとて旅店に腰をかけて

躑躅生て其陰に干鱈さく女

吟行

葉畠手花見ものなる雀うち
[illegible]廿年を経て故人あり
命二ツ中に活きる橘うり那
伊豆國蛭ヶ小島に流れ来門[illegible]きゝ[illegible]絶えう
切御[illegible]ゝ家を[illegible]の松乃[illegible]
[illegible]尾張の玉[illegible]を[illegible]ひ[illegible]れハ
[illegible]毎に稚[illegible]ゝ[illegible]雪[illegible]松
此[illegible]家に[illegible]て曰く[illegible]寺大顛和尚[illegible]
むかのはゝ迷化[illegible]ふゝ[illegible]の[illegible]

地[illegible]に[illegible]遠[illegible]芦角ゝ方[illegible]
毒[illegible]卯[illegible]物[illegible]涙うな
姫杜玉子
白[illegible]ゝ[illegible]繋の[illegible]
二[illegible]相[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
牡丹葉姫[illegible]
早[illegible]玉[illegible]姫の[illegible]
切[illegible]

如月末方にて旅のはらへをはりて

笠着て草鞋はかばや雛の市　芭蕉

吊初秋七日雨星

天の川とみあかしの夜風雲天にみち白浪銀河の岸をひたして鵲橋をなす一葉舟槽をあまたたぐへて二星を屋形をしなす七夕の雨を呂水に見てあるいは一碧を流す折から一遍照小野の宮をはじめ人あるさまもすべて此二首を探て面白さ比類なきものかな

小野の宮

言水手習を鶴や岩の上　芭蕉

遍照の宮

七夕にかすかなりしは給合歓　杉風

吊古戦場

三代乃栄耀一睡の中にして大門のあとを一里ばかりあなたに秀衡が跡を眺て田野になりて金鶏山のみ形をのこす先高館に登る秋草に小上川を南に流れて大河なり衣川を泉ヶ城をめぐりて高館

[illegible]下して大河を渡る原郷の旧跡を哀しむ
を流く南部口を防ぐ[illegible]
[illegible]毎々義兵を[illegible]城主の[illegible]功名
一時の義となる[illegible]國破れて山河あり城春
て草木深[illegible]時に[illegible]て涙を
落す作なり

文章や兵[illegible]少[illegible]のあと

松倉嵐蘭誄

金革を纏[illegible]あ[illegible]て[illegible]ハ士の志也

文質偏なる[illegible]て[illegible]れ[illegible]松
倉嵐蘭ハ[illegible]を骨[illegible]て實を膳[illegible]老莊を
繞[illegible]て[illegible]を[illegible]
ちるむる十[illegible]あ[illegible]九[illegible]や[illegible]三[illegible]半り
[illegible]を辞して岩洞に先賢の跡を[illegible]る
老母を[illegible]ひ稚子を[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]唇の[illegible]寺[illegible]
[illegible]て今年仲[illegible]中旬三日中[illegible]
倉[illegible]の松[illegible]月を[illegible]て[illegible]倉[illegible]を[illegible]

[illegible]
おれしき廿七日のあるやセヤ乃母
[illegible]七歳稚子ふおりしを[illegible]
むつを数ひのあ千年に[illegible]
膳をしまつてかは悔まし[illegible]
[illegible]
くるはをくるあるを今ふ乃めんを[illegible]
神[illegible]老母の根ほ[illegible]
[illegible]偏に親族の別[illegible]

[illegible]
[illegible]稚子[illegible]
[illegible]
お歳の服さうふ[illegible]と戒の一字を掲く嵐戒
を[illegible]
[illegible]
[illegible]
めく[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

秋風や[illegible]き素堂扶

加賀一笑誌

一[illegible]者[illegible]道[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

安永四乙未霜月日

書林

京師　筒井庄兵衛
　　林權兵衛
　　野田治兵衛
　　石原茂兵衛
　　淺野弥兵衛

浪華　前川六左衛門

東都　山口吉郎兵衛

本五